

課題研修 SNS テクニック② 講演録

■実施日時：令和 7 年 7 月 9 日（火）13:30～14:20

■開催形式：Zoom によるオンライン開催

■講師：株式会社 with fun 代表取締役 山田洋平 様

■テーマ：夏休みに備える！SNS 企画集

■主催：公益社団法人東京都専修学校各種学校協会

本研修では、株式会社 with fun 代表取締役の山田洋平氏を講師に迎え、SNS を活用した学校広報における投稿設計の考え方、発信対象、継続の工夫、長期休暇中の対応について、具体的な経験をもとに解説が行われた。

講師は、SNS のフォロワーの多くは在校生や卒業生であるため、まずは在校生に見られることを前提に投稿を設計する必要があると述べた。ターゲットを高校生に設定しても、在校生が興味を持たなければ広がらないため、在校生がシェアしたくなるような内容が結果的に高校生にも届く仕組みになると説明された。

投稿頻度については、『数字を追わない』という基本方針のもとで、フォロワー数やいいね数よりも、定期的な発信を続けることが重視されるとされた。現状維持には週 2 投稿が必要であり、週 1 投稿では微減、週 3 で微増、週 5 で募集改革レベルの改善が見込めるとの目安が示された。リール投稿を重視する点、接触回数が重要である点、何度も伝えることが必要である点も強調された。

長期休暇中は投稿が止まりやすいが、「長期休みこそ重要」と講師は述べ、情報が届きやすくなるタイミングとして発信を継続するべきであると語った。長期休暇中は投稿が止まりやすいが、講師は『長期休みこそ重要』と述べ、こうした時期にこそ情報が届きやすくなるとして、発信の継続が重要であると説明した。

投稿企画は『松竹梅』に分類して整理され、手軽な施設紹介（梅）、人物紹介（竹）、ライブ配信（松）といった段階的な取り組み方が紹介された。SNS 運用は一人で抱え込まず、教職員、卒業生、学生、外注など複数の関係者で役割を分担することが継続とリスク対策の鍵になるとされた。

質疑応答では、投稿を継続するための工夫について質問があり、講師は「定期更新の体制を作ることが大切」と述べた。また、講師は、SNS を見に来させる工夫や、運用を習慣化する仕組み作りの必要性に触れ、無理なく継続できる体制の整備が重要であると述べた。